

平成28年度 住之江区区政会議

第1回 魅力・ブランド部会 会議録

○高田ブランディング課長

そうしましたら、魅力・ブランド部会のほうを始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてどうもありがとうございます。改めまして、本日の司会を務めさせていただきます住之江区役所のブランディング担当課長を拝命しております高田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、全体会議同様でございますが、議事に入らせていただく前に、会議に当たっての留意事項を説明させていただきます。

本日の会議では、個人情報などの非公開情報がございませんので、会議は公開とさせていただきます。また、議事録につきましても後日、公表となります。また、公表する際には、ご発言内容についても公表となりますのでよろしくお願ひいたします。それと、会議中のお写真につきましても、ホームページ等に掲載される場合がございますので、ご了承のほどよろしくお願ひいたします。

それでは、進行を中村部会長にお願ひしたいと存じます。

部会長、よろしくお願ひいたします。

○中村部会長

皆さん、こんばんは。夜遅くご苦勞さまでございます。ただいま、紹介にあずかりました部会長の中村です。皆様の貴重なご意見をいただく会議でございますので、活発なご発言、議事への協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、お手元の資料に基づき進めてまいりたいと思ひます。

事務局のほうから説明をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○高田ブランディング課長

それでは、議題1、2を一括しまして、平成27年度の区政運営並びに平成28年

度予算について、ご説明いたします。

全体会議と一部内容が重複しますがご了承ください。

それでは、お手元の資料、このパワーポイントの資料をごらんください。

1枚めくっていただき、裏面の3ページ目になりますけれども、こちらをごらんください。

近代化産業遺産を生かした「suminoeアート・ビート」の推進ということで、北加賀屋にある近代化産業遺産「名村造船所大阪工場跡地」で、10月18日アートイベントを開催しました。昨年で7回目となるイベントですけれども、約9,600名の方にご来場いただきまして、地域に定着しつつあるものになってきております。このイベントは、名村造船所が近代化産業遺産に認定されたことを契機に始めたものでございますことから、指標としましては、名村造船所大阪工場跡地の認知度というものをあげております。その認知度ですが、平成27年度区政モニターアンケートでは55.8%となっております。

続きまして、その下をごらんください。

「suminoeクール・ビート」の推進ということで、南港ATCで区内の学校や企業、地域の皆さんと連携したイベントを12月に開催しました。ライティングショーや特殊効果花火を中心に実施しまして、「大阪・光の饗宴」とも連携しております。住之江区はクール・ジャパンが盛んであると思う区民の割合を50%にしたいという目標を立てておりましたけれども、アンケートの結果は37.7%ということで、目標達成には至っておりません。

次のページをごらんください。

同じく「クール・ビート」の推進ですが、こちらは運営方針の取り組みには上げておりませんが、歴史的エリア、建造物を生かしたイベントということで行っております。加賀屋新田会所跡のほうで、「春らんまんこどもまつり」というイベントを3月13日に開催いたしました。

その下をごらんください。

昨年度の部会のご意見ですが、光のワンダーランドがA T Cの事業に見えてしまっているでありますとか、あと、イベントは継続性が大事であるということですか、あと、地域の取り組みに参画するなど、加賀屋や南港以外の地域へも事業展開すべき。住之江祭の前1週間を「安立まつり週間」として盛り上げて、まちおこしにつなげようといった動きもありまして、このような地域での取り組みに参画することで、事業を広く展開していくべきではないかといったようなご意見もいただいております。こういったご意見も踏まえまして、平成28年度予算についてご説明いたします。

1ページをおめくりください。

平成28年度予算につきましては、2月29日の区政会議で既にご説明をさせていただいておりますが、3月市会を経まして正式に決定したということで、改めて簡単にではございますが、ご説明いたします。

下の部分をごらんください。

運営方針の取り組みの1-3-1ということで掲げておりますけれども、近代化産業遺産を生かした「suminoeアート・ビート」の推進ということで、220万円を計上しております。今年度につきましてもアートを住之江区の個性の一つと位置づけまして、イベントの核に、情報発信の核にと活かしてまいりたいと考えております。また、地域や地域のアーティスト、企業、NPO等からなる実行委員会を立ち上げまして、企画段階から参画をいただきまして、こちらを持続可能な活動へとつなげてまいりたいというふうに考えております。

次のページをごらんください。

運営方針の取り組み1-3-2に掲げさせていただいております「suminoeクルール・ビート」の推進ということで、180万円を計上しております。昨年に引き続き、南港でイベントを開催してまいります。こちら地域や南港、咲洲の企業様、学校などからなる実行委員会を立ち上げまして、企画段階から参画いただき、持続可

能な活動へとつなげてまいりたいというふうに考えております。また、今年度につきましても、「大阪・光の饗宴」とも連携して、住之江区の魅力を広く発信するプロモーション事業として構築してまいりたいというふうに考えております。

今後とも、区民の皆様のニーズを踏まえながら、みずからの地域に愛着や誇りを持っていただけるような、そんな住之江区の魅力向上に向けた取り組みを検討して、実施してまいりたいというふうに考えております。

済みません、以上、雑駁ですけれども、27年度の区政運営の振り返りと28年度予算についてご説明させていただきました。

ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

○中村部会長

ただいま説明していただいたとおりでございます。皆様のご意見をいただきたいと思いますが、先に27年度の運営の振り返りについて、先ほど説明していただきました中身なんですけど、いかがですか。ご意見ありましたらお願いいたします。

○小川委員

振り返りのところで、大津委員から安立まつりウィークの話があったのですが、何か具体的に聞きたいんですけど。

○大津委員

そしたら、ちょっとそのほうのご案内をきょうはこういうのを用意しましたので、見てください。お願いします。いってありますか。

それじゃ、先ほどレジュメの中で、27年度の区政会議部会での主な意見も3番目に、私どもの地域でのまつり等の取り組みについてのことを少し言わせていただきました。それを少し具体化していこうではないかということになりました。その資料のとおり、多少ちょっと肩肘張っているところもあるんですけども、これをニューブランド登場として、安立まつりウィークというのを立ち上げたい。これは、安立という地域の個性とか、特徴とか、そういうものを活かしたまつり週間をつくろうと、こう

しております。

この資料を簡単に紹介しますと、住吉祭が8月1日にあるわけですが、「その感動の贈り物をあなたに届けます」と、こういうことで今、呼びかけております。住吉大社神輿渡御に先駆け、安立のまちの歴史・文化を活かした祭りが幕をあけますと。私たちのまちには天武天皇の第四皇子、長皇子の歌碑が見守る安立の街道は今、まち並みウォーキングの歴女たちが大阪中から往来しております。このまち全体を歴史的景観ミュージアムの劇場に見立てて、その中心にある小さな霰松原公園を中心に、にぎわいのまちへよみがえらせていこうという安立まつりを立ち上げるということを考えております。庶民が集い、笑いとにぎわいのあふれる大神輿の宵祭り、あるいは宵々祭りという、時期的にはそういう位置づけになるかと。まず一歩からと、こういうふうを考えています。

私たちのまちの特徴は、もう安立は、平べったいまちでございまして、特別なすぐれたテクノロジーがあるわけではございません。また、特別な施設があるわけでもありません。もうまち自体が言うならば、向こう3軒両隣、物すごいきずなの強い、そして高齢者がいっぱい、わんさとおる、そういうまちでございまして。そういうまちをそのまま生かそうじゃないかと、それを生かして、魅力のある輝く何か感動の渦が巻き起こるようなものを作りたいというのが、まちの中から出てきた意見、発想でございまして。そういう意味で言えば、私たちの地域も可能性のあるのではないかと、何かを加えていけば可能性が出てくるのではないだろうか。住之江中、大阪中から見に来ていただけるような可能性があるとっております。それは、地政学的に見ても、幹線道路、国道が2本走っております。それから、鉄道も2本走っております。もうこれは人や物や金が動いていく、そういう地域でもあるわけですし、そういう意味でこういったことを取り上げようとしています。なぜ今までなかったのかということですが、すけれども、安立は一面、そういう意味で言えば宝の山のようなまちなんです。ところが、宝の中に住んでいる人は、自分が宝の中に住んでいるということは気がつかない

いんです。よそ者が気がつくわけでごさいます、私のようなよそ者が働きかけて、これをやろうじゃないかというようなことで動き出しました。協力企業とか、NPO 団体、学校ほかたくさんの方が協力いただいたのです。ことしは第一歩ですから、そんなに大したすごいことができるわけではごさいません。資料にありますとおり、安立まつりウィークスケジュールと書いておりますけど、18日、海の日、この日が神輿洗神事というのがあります、8月1日に渡御があるわけでごさいます。その間に、現在、決まっておりますイベントとしては、23日、土曜日の盆踊り、浜口東公園と。26日、これは特別な仮設舞台をつくりまして、霰松原公園というところでトワイライトのコンサート、獅子舞等をやる予定でごさいます。28日は、狂言をやります。この狂言師は、大阪能楽堂で人間国宝さんと一緒に舞台に立っている一流の狂言師でごさいます。この人が来てくれて、そういう住吉さん、それから、地元、安立の古いまち、そういうところを活性化するためにやる祭りならば、自分も出たいということで意見もいただきまして、大道芸とともにここでやる予定でごさいます。かがり火をたいて、盛り上げていきたいと、こういったことでごさいます。

以下、まつりウィークのイベント、今、紹介したようなことでごさいますけども、こういったことをやりながら、まず、本年のスタートをしてみたいなというところでごさいます。

概要としては以上のとおりです。

○中村部会長

ありがとうございます。

○大津委員

ぜひとも、また、お知恵をかしていただいて、もっとこないしたらええやないか、もっとあないしたらええやないか、ちょっとこれは甘いでとかいうことはぜひとも教えていただきたいなと思うところでごさいます。

○中村部会長

大変、私が聞いた中では、一番活発にされているのでいいかなとは思いますが、皆さん、どうですか、ご意見。

○中村部会長

予算とかはもう、今の地活協のほうでされるのですか。

○大津委員

今で、事業計画と予算を今、立案中のごさいまして、ほぼ煮詰まっておるんですけども、何か金がないもので、ただでできないかというのが出発点のごさいまして、ただはあかんやろということで、まだ金額、予算いいかなというところまで煮詰まってないんです。まあまあ、具体的にはそれをどうしようかと、無ではできませんので、当面は地活協の中から融通してもらってというふうに考えております。

一番金がかかると思ってた狂言の人ですが、大阪能楽堂でいきますと、入場料1万円取るんです。私も行ってきました。1万円なんです。

○中村部会長

1万円の値打ちがあるということですか。

○大津委員

あるんです。その人が来るといったら、もう何ぼ金を払わないかんのやということで、一生懸命まあまあ、今回お世話してくれた人にアピールをしまして、かなりただで来てくれた。こんなすごいことをやってるのに金なしにしてくれと言うても、そうはいかんと、こういうふうな感じで、電車賃とクリーニング代はもってくれと、こう言われた。ただ、クリーニング代というても、あの人らの世界のクリーニングは何か金色の何とか見事なあんなことを着てやってはりますから、そのクリーニングがどうなのかというと、また、夜も寝れんようになるわけですけども、とにかく、最小の予算でと思っております。

○世古口市民協働課長

今年度は特に皆さんご存じのとおり、昨年度に実施しました企業、NPO地域学校

交流会、そこで集まって、そのメンバーが引き続きの会議をずっとして、あと、盛り上がりをつくるということですが、小川さんなんかもそのころには人をふやしたり、ああいう形での今、進めているということで、当面は安立地活協が中心に、企業さんとかNPOさんとか、学校と連携しながら取り組んでいるということでございます。

これを次年度の次の住之江の魅力向上にどうつなげていくかというのは、また、この部会で議論していかなあかんことなんかなとは思いますが。

○高田ブランディング課長

先ほど区長も申してましたんですけども、新たに魅力を、ブランドを創出するというのも大事なんですけども、こうやってもともとある地域の魅力を掘り起こしてスポットを当てるとということも、住んでいる方の愛着を高めたり、その誇りを感じてもらったりとかということで、非常に大事なかなというふうに思いますので、ぜひ成功していただけたらと思っております。

○大津委員

頑張ります。

○中村部会長

お願いします。

あと、何か皆さんからご意見ございませんでしょうか。

○高田ブランディング課長

済みません、ちょっと先ほど今年度のご説明のところ、ちょっと申し上げたらよかったんですけども、先ほど永井議員のほうから面的な広がりをもっと持ったほうがいいんじゃないかといったようなご意見もございましたんですけども、今年度はアート・ビートにつきましては、マスクという、また、これも北加賀屋のほうで開催されているアートイベントなんですけれども、そちらと時期を共同開催できるように、今、調整をさせていただいているところでして、面的な広がり、さらなる広がりということで、今まで名村造船所の跡地にたくさんの方、去年ですと96,000人の方

にお越しいただいてたのですけれども、そういった方たちをもっと北加賀屋のエリア
一帯に回遊していただくというか、足を向けていただこうということで、ちょっとそ
んな取り組みもワーキングの中で進めようとしているところです。

○中村部会長

佐藤さん、何かそういう取り組みどうかという話をご存じなんです。

○佐藤委員

今、高田さんからあったように、アート・ビートはもう3回目か、会議が進んでお
る次第です。さっき説明にあったように、例年は名村造船所跡地を中心に、そこだけ
でやってたんですけど、イベント自体を。もっと北加賀屋の人及びその周辺の住民も
参加できて、お祭りの雰囲気盛り上げよう。去年の区長るときから議題には上がっ
てたんですけど、北加賀屋の駅からせめて名村造船所の道沿いまで何かないと、もう
ちょっと華やかにできないかな、できるだけお金もかけずに何か協力してできないか
なというのはあったので、それをことしより具体的にできないかと今、話を進めてい
る最中です。

○中村部会長

小川さん、何かご意見どうですか。

○小川委員

そうですね、アート・ビートのところで何か、このクール・ビートって何を考えら
れるのかなというのがあったんですけど、何かまた実行委員を立ち上げるんですか。

○高田ブランディング課長

そうですね、はい。企業さんですとか、大学さんですとか、あと、地域の方の参加
というのがなかなかちょっと去年は難しかったというふうに聞いてますので、そうい
ったこともできるように、今、ATCさんとかとワーキングのプレワーキングみたい
なものをしているんですけど、ちょっとそんな話も今させていただいているところ
です。なかなかちょっとATCさんの事業にしか見えないとか。そんなご指摘もありま

したので、何かそういうところももう少し工夫できたらなというふうには思っています。

○小川委員

場所的にはまた一緒のところと。またワンダーランドの開催になるから。

○高田ブランディング課長

そうですね、場所は今のところA T Cでと。ちょっと今回は交通局さんにもご協力いただく関係で、やはりA T Cさんでのああいってイベントに対して予算は投じれるというふうな、そういうご判断もありまして、今年度は同じような場所というかA T C。

○小川委員

ある程度、集客ないと交通局さんも乗ってくれないですよ。

○高田ブランディング課長

そうなんです。一応、何人ふえるというのがこう。

○小川委員

ふえないと前後の駅貼ってくれないですよ。

○高田ブランディング課長

そうです、はい。

○小川委員

協賛金も交通局に出してもらおうかですね。

○高田ブランディング課長

そうですね、我々と同額、それ以上というところでご協力いただいています。

○小川委員

大阪エンターテイメントデザイン専門学校って、今のところ連携なんかは何かありますか。

○高田ブランディング課長

そうですね、その辺との連携も余りちょっとできてなかったのです。

○小川委員

企業さんとか。

○高田ブランディング課長

企業さんは、ATCさんとあと杵屋さんですとか、NPOのエスペランサさんですとか、その辺ですね。若干、さんふらわあさんにもご協力いただいていたようなんですけど。そういったところですよ。

○世古口市民協働課長

最初やり始めたころは、やっぱりエンタメ校が来てくれると、ワインミュージアムの跡地に。そこにすごい期待してスタートした事業です。もともと、実はこれ商店街振興事業だったんです、最初は。商店街振興事業を局から予算持ってきて、こういう展開を今しているんですけども、ATCも商業施設で、もともとATCによるさんコスプレの人も多いし、ましてそのエンタメ校というのが、前市長からは負の遺産と言われたあのワインミュージアムを買いとっていただいて、そこにエンタメ校という専門学校ができて、そこがもうまさにポップカルチャーといいますか、アニメとか、声優とか、演劇とか、そういう方々、学生を雇っているような学校なんです。そういうところと連携しながらポップカルチャーをもっとばんと打ち出したいなというのが当初の、スタートしたときはそういうことで目指しておったんです。なかなかそのエンタメ校自身が生徒も集まらへんとか、いろいろあったみたいで。余りその活性ができてないんですけど、どちらかというとならとジョイントしながら、何かいかにばっと光の饗宴と連携してというような形で今、進めておるといふ実態なんだけども、当初はそういうことを目指していたと。

○小川委員

子供マーレやったかな。あそびマーレかな。あそびマーレがすごいらしいですよ。

あそびマーレというので、今、天王寺のてんしばという新しい公園のところにもあ

るんですけど、子供の遊び場で、お金を初めに払っておいたら、どれだけ遊んで出て入ってもいいというようなやつ、遊び場があるんですけど。

○世古口市民協働課長

要は、1回出てもいいんです、再入場できるから。だから、A T C 的にも子供は午前中遊んで出て、ちょっと食事して、また入って、丸1日遊べるところ。非常に遊園地とかでもU S J とか行くよりもずっと安いということで、偉い人気で。

○小川委員

去年の何かそういうサイトで1位になった言うてたね。

○高田ブランディング課長

済みません、先ほどの件、ちょっと訂正させていただきますと、ご協力いただいている企業さんは、F M 中央さんとオカリキさんと、N P O のエスペランサさんでした。済みません、ちょっと訂正させていただきます。

○大津委員

この光のワンダーランドですか、これは私たちもまち会でポスターを貼ってくれい
うていただいて貼るんですけども、寒い冬にやっとなる。何で冬なんかなという。光
物だったら大体夏ですよ。よくわからんのよ、何で。

○中村部会長

クリスマスとかかけてるんじゃないですか。

○高田ブランディング課長

そうですね、光りの饗宴と連携して。

○世古口市民協働課長

光の饗宴というオール大阪の。

○伊藤委員

イルミネーションなんか一緒に。

○大津委員

そういうことですか。

○中村部会長

何か周知徹底をもうちょっとどうかしていこうとかいう方法を考えておられることがあるんですか、何か実行委員会とかで。

○高田ブランディング課長

そうですね、その光の饗宴と連携することで、広くパンフレットなんかでの周知というのは可能なんですけれども、それ以上にやっぱりSNSですとか、今、区役所のほうで力を入れているのは、SNSですとか、LINEですとか、FacebookといったSNSです。

○中村部会長

わかりました。そういうことですか。

○小川委員

何かあれですよ、予算を使って、住之江区を何かアピールできてないのかなってところ。

○高田ブランディング課長

予算をかけてということなんですね。

○小川委員

勝手に花火をつくったり、イルミネーションにしても、僕らも思うんですけれども、イルミネーションに行って、クリスマスツリーを見るって、「かなり曲がるんだ。以上。」というのが率直な意見だと思うので。

○中村部会長

住之江区のそういう魅力が何か前面に出てないようなところへんなんですか。

○小川委員

区が予算を使っているというのがわかりません。

○世古口市民協働課長

これをやる3年前にスタートしたんですけども、そのときには一応、クール・ジャパン宣言とか、一応やったんです。住之江クール・ジャパン前夜。一応、高橋前区長が桃太郎侍の格好をして、あれしてみようと。そんなんやったんです。一応、クール・ジャパンに兼ねて。ところが、今はだから、そのクール・ジャパン宣言みたいなこともないのかなという気はします、この時点では。

○高田ブランディング課長

そうですね。

ちょっとクール・ジャパンというのと、やっていることとが違ってきているという。

○中村部会長

あとちょっと、時間の都合もございますので、予算のほうに入っていきたいんですけど、一応、先ほどご説明していただいたような予算で推進していこうということなんですけど、何かご意見ございますでしょうか。

○小川委員

さっきも言ったんですけど、もったいないような……。それやったらもうアート・ビートに全額つぎ込んだらと思いますが。

○伊藤委員

現に、そこに行けない人もいてるから、いいんじゃない分散して。ただ、180万円使う価値をもうちょっと高めたらいいだけの話じゃないんですか。だから、もしよかったら、その企業さんがもし共催してくださるんでしたら、もっと企業の名前をばしばし入れてあげて、上げちゃって、もっと寄附をもらうとか、180万円を250万円ぐらいにするとか、しないか。花火は結構高いと思うので、多分、

○中村部会長

花火は高いね。

○高田ブランディング課長

ほとんど花火の経費ですね。

○伊藤委員

花火代以外に、もし費用が必要であるのであれば、例えば、そこに行った人に、人間っておかしな話、何かもらえとか、何かが必要に残るとというのが一番うれしくて、例えば周知にしても、クリアファイル一つでも構わないし、何でも構わないんだけど、そこに行っちゃえば何かがあるとか。例えば、ペンライトでもいいです。ぱきっと折るやつでも構わないですけども、あれ何て言うのかしら。

○中村部会長

ありますね。

○伊藤委員

それを企業さんから協賛してもらって、それを予算に回すとか。コンサートをするわけじゃないので、別にそのライトっぽいものは何も要らないかもしれないけれども、夜道で暗いからぱきっと折って帰ってねとか、それでも構わないと思うけど。

○高田ブランディング課長

それもその企業さんにとってもメリットになるようなことですよね。

○伊藤委員

そこにコマーシャルを入れてもらったりとか。両者互いにメリットになるようなものの。

○佐藤委員

suminoe クール・ビートのほうは実行委員会はないんですか。アート・ビートみたいな。

○高田ブランディング課長

あります。

○佐藤委員

あるんや。

○高田ブランディング課長

はい、一応、同じような実行委員会形式で。

○佐藤委員

ここにはそのメンバーはいてはらないんですか。

○高田ブランディング課長

ここにはいらっしゃいません。

○佐藤委員

そうなんや、それは残念やね。話を聞きたかった。

○中村部会長

どういうふうに予算をうまく使ってもらわないと。

○佐藤委員

地域の人も入ってはるんですよ、その実行委員は。

○高田ブランディング課長

はい、ただ、実態としては、それほど何て言うんですか、ご参加ただけてはなかったんです、実際。

○伊藤委員

でも、パーセンテージ低いかもしれないけれども、この開催なさってらっしゃるとき、結構、人出だったわよ。と思わない。結構、人は出入りが。例えば、一人で1回じゃなくて、何度も行かれています方もおられるはずなんです。区以外の方で、例えば区外の方がパーセンテージが低いとおっしゃっても、近くにいてる人たちは、ポット行けばすぐそこに見えたりとか、もうだから、すぐ近場でそういう華やかなことをしていると、ちょっと今夜行かないとかって言って、多分、行っている回数が多い人も近所におられるんじゃないかなと思う。伊藤でも2回行った。

○高田ブランディング課長

そうですか、ありがとうございます。

○伊藤委員

そんな感じかな。だから、頑張る。ぽきよ。ライトが欲しいよ、ライトが。

○高田ブランディング課長

ライトですね。そうですね、ちょっと花火だけという、何かそんなイメージで終わってしまっているの、そこはほんとにちょっと。

○伊藤委員

花火、花火、花火ね、花火もいいけど、花火を見た後で何か得したなというやつがあれば。

○高田ブランディング課長

お徳感ですね。

○佐藤委員

花火があったからって良かったってことは思わないですよ。その名村造船所やったらこういうのがあるんだとか、ラバーダックだけ見たりとか、何か印象に残って、また来年も来ようかなとか思うかもわからないですけど、花火だったらどこでも見れますし。

○高田ブランディング課長

わかりました。今後の課題として、重くうけとめます。

○伊藤委員

お金がかかるのよね。

○高田ブランディング課長

お金はかかる、はい。

○小川委員

無理して使う必要はないのかなと思うんです。

○高田ブランディング課長

もっといい使い方があるんじゃないかということ。

○小川委員

この時期やったら、咲洲こどもフェスタとかやっていると思うんですけど、あのときも人が来てますし。花火上げなくても、これだけ予算があれば、さっき言われたように、クリアファイルだけでも持って帰るじゃないですか。住之江のことを書いてたり、地域のことを書いてたり、つながることが書いてたら。

○中村部会長

そうですね。

○小川委員

ただでもらったし使おうかなとか。とりあえずプリントでどうかなとか。

○伊藤委員

そうなのよね。ちょっとうれしい、ただは。

○小川委員

それにちょっとマップがあるだけでも。実はこんなところに・・・。

○高田ブランディング課長

なるほど。

○小川委員

じゃあまた、見に行ってみようかなとか。もしかしたらいいかもわからないですけど、来てくれるかもわからないです。何かそれで来てもらったほうが、花火見て帰るよりは。僕らも・・・たいから、きょうは花火で帰る。花火を見て思うのが、こんな太いところよく住んでるなとか、花火をしたとき、車も入れへんし、自転車も入れへんし。子供大変やなと思って、ぎゅうぎゅうの電車で帰るので。いいイメージは余りないです。地域に対して。路駐も多いしというのがあって、余りいいイメージはしません。

○伊藤委員

せっかくクール・ビートで光のワンダーランドの饗宴なんだから、何か光にかこつけた部分をもうちよつと。

○小川委員

光るクリアファイルにしますか。

○伊藤委員

いいかも、いいかも。

○高田ブランディング課長

そうですね、A T Cさんの場合は、光の饗宴で中之島なんかに足を運ぶのは、家族連れさんなんかにとったら、すごいハードルが高いですけど、その点、A T Cの場合は行きやすいというか、安心していけるというところがあるので。

○伊藤委員

イルミネーションはすごくいいと思う、ちょうど。

○高田ブランディング課長

その辺をもう少し強みに、ファミリー層をターゲットにして、もうちょっと考えられへんかなというのもちょうと考えているんですけど、具体的なアイデアがちょっとまだなので、きょういただいたご意見なんかもまた、ワーキングにお示ししたいと思います。

○伊藤委員

庁舎がちょうどあそこのところに窓を全部字を書くとか、住之江の光、電気を真っ暗にしたときに、そこに浮かび上がる住之江とか。その部屋だけ電気をつけるとか。

○中村部会長

高過ぎて見えないん違う。

○小川委員

でも、それもおもしろいから、一つの絵になるので、みんながアップするんですよ。電車の中から見えるので。

○伊藤委員

それがいい。電車の中から見えるのがいい。

○小川委員

多分、次行ったら、クリスマスツリーでしたもんね。

○伊藤委員

どこでもやってるから、ちょっと違うやつがいい。

○世古口市民協働課長

中之島のところとかよくやっています。ビルでね。

○伊藤委員

ハルカスもあることだし、高い建物はちょっと有効に使って、電気代かかるかもしれないけど、ちょっとそこの部屋だけつけといてもらえる。光の饗宴、その2。

○伊藤委員

その期間だけでも。枠が広がるでしょ。

○高田ブランディング課長

済みません、そしたら、ぼちぼち時間も来ているんですけども、今後のスケジュールなんですけれども、予算要求が9月にございますので、それまでに部会としての意見を取りまとめるという必要がございますので、本日いただきましたご意見と、また、28年度の事業も進捗していくんですけども、その状況も踏まえまして、8月ぐらいに2回目の部会を開催させていただけたらなと思ってます。そのときにまたご意見をいただきまして、29年度の予算要求に反映したいというふうに考えております。

部会長、ご意見の総括はできそうですか。

○中村部会長

難しいな、いろいろ。

○高田ブランディング課長

安立のお話と。

○中村部会長

あとはちょっとそのクール・ビートのちょっとことを聞いて。

○高田ブランディング課長

そうですね、ちょっと課題がありましたので。

○中村部会長

そのぐらいを2点ぐらい。

○高田ブランディング課長

そうですね。

○高田ブランディング課長

また、本会議のほうでもご紹介いただけるということですので、はい。

○中村部会長

そしたら、どうもありがとうございました。魅力ブランド部会はこれで終わりたい
と思います。よろしく申し上げます。

○高田ブランディング課長

ありがとうございました。